

## 東京大学企業研修レポート

私はこの研修で、実に様々なことを学び、感じ、考えることが出来た。ひとつひとつのイベントが私に少なからず影響を与え、自分の価値観や考えが変わっていくのを多々感じた研修だった。数ある貴重な体験と私が学んだことをここにあげさせて頂く。

まずは、ディレクトフォースについて話したい。私は、新日鉄住金の方にお世話になった。先生の話では、本社へ入ることは社員でさえも大変なことだということだったので、いざ入るときは気持ちが高まった。そこで社員の方々に仕事内容、仕事の面白さ、そして、仕事をするにあたって大切なことをいくつも教えて頂いた。

その一つが、『仲間を大切にすること。』である。仕事をしていけば、必ず困難が訪れ、解決策を見出さなければならぬ。また、会社を発展させるためのアイデアも、考えなければいけない。数学では答えが用意されているが、困ったことに、これらには正解が必ずしも存在している訳ではないのだ。だからこそ、仲間を大切にすることが重要となる。話をして下さった方々の一人である千葉さんは、「仲間と真摯な議論を重ねて最適解を追求することが仕事の面白みであり大切なことだ。」とおっしゃった。これを踏まえて、私は以前から考えていたことをますます強く感じるようになった。それは、二種類の仲間を作ることである。自分の味方をしてくれるものにだけ囲まれることは、自分自身の視野を狭くし、過ちに気づかず、己を過信することに繋がると思う。それでは最適解を見つけることなど出来ない。自分を批判してくれる人を避けず、意見を取り入れることで初めて「最適」は見えてくると思う。

また、ディレクトフォースでは他にも、「高校生の内に様々な分野に手を伸ばすことが大切だ。」という話を頂いた。私はこれまで学校で習ったことを覚えようとするばかりで、何かに疑問を感じても手を伸ばすことはなかった。しかし、それではよくないと学ぶことができた今、私は手を大きく広げることを心掛けようと思う。学生の仕事は勉強であるのだから、勉強さえ取り組んでいけばそれで充分なのだろうという幻想を払ってくれたことに感謝したい。

次は、企業研修について述べていく。この企業研修というものは今までに何度かさせて頂いているが、何度経験しても面白くて、私にとってはこれが最大の目玉であった。ところで、私は現在、薬剤師になりたいと考えている。そこで、今回私は協和発酵キリン東京リサーチパークにお世話になった。そこで伺ったお話によると、創薬には様々なプロセスがあり、自然界などから新しい薬の種を見つける「探索」、製薬や臨床試験を行う「開発」、厚生労働省で実際に商品化するための許可をもらう「審査」の三つに大きく分けられるという。私達が訪問させて頂いた施設は、その「探索」の部分に取り組んでいらっしゃるそうだ。施設はS棟とR棟に分けられていて、S棟では、研究員をサポートする職員が勤めており、R棟では、研究員が日々新薬の種となるものを探し、研究に没頭している。また、地下は動物実験室になっており、クリーンレベルが高くなっている。御社は「コミュニケーションをとりやすく」をコンセプトになさっており、施設内には自由に書き込みが出来るホワイトボードや、休憩所があちこちに設置されていた。この様子からも、やはりコミュニケーションは仕事をするにあたってとても重要であることが伺えた。人と人との交流は、社内のみならず周囲に住む人々とも必要らしい。薬品の使用が多いため、それだけ住民の不安も募りやすく、互いの関係を良くできるような気を配っているそうだ。施設見学をさせて頂いたことで、研究員としての仕事のイメージや職場の様子を知る事が出来たのは非常に嬉しい経験である。さらに、研究員の方にインタビューもさせて頂いた。そのおかげで私のイメージはまたもや覆された。私はこれまで、薬の開発というものは一人、または二人でおこなっているのだと考えていた。しかし、実は数十人単位のグループでおこなわれていて、多いときには会社の人だけでも百人くらいの人に関わっているそうだ。という事は、会社の外でも多数の人々が関係しているのだろう。予想以上の大人数が関係していることを知って、私

は少なからず驚いた。しかし、間違いだけではなく、自分の予想が当たっていたものもあった。私は、新薬の開発や研究中に偶然に出来た薬もあるのではないかと考えていた。結果その通りで、こういう、意図していなかったものが誕生することはよくあるらしい。これはセレンティビティと呼ばれ、例えばバイアグラがそうであるという。それから、薬の開発にかかる費用も伺った。さて、皆さんは一つの薬を開発するのに一体いくらかかると考えているだろうか。答えは数百億である。特に、臨床開発試験が多く費用を必要とするそうだ。確かに、何百、何千、何万という被験者にお金を払うのだから、それはとてつもない額になるだろう。

現代社会において私達が健康に生活できているのは、薬のおかげといっても過言ではないだろう。これはものなら何に対しても言えることだが、私達が使用する一粒の「薬」が、途方もない労力、時間、お金をかけて作られたものであることを忘れないようにしたい。

次の日、私達はいよいよ東京大学に入った。そこで私が最初に驚いたことは、建物である。大都会である東京にあるとは思えない、さながら明治時代にいるようなつくりになっていた。そして、外観とはうってかわり、中には様々な機械が設置されていて、そのギャップにも驚いた。話に聞いただけでもたくさんの機械があることは十分にわかり、前日に OB の方が言っていた、「どんなにマニアックなことでも研究できるのが東大」という言葉を実感した。日本で一番レベルの高い大学というだけあって、研究所内などでされる話はどれも難しく、理解することができなかった話も多々あった。あまりの難しさに驚く一方で、相手が自分と十歳も離れていないことを思い出し、自分もこうなれるのかと考えもした。先程述べた OB の方々も大半が東大生で、中にはまだ学生なのに自分で会社を設立している方もいた。もちろんその方々の話もまた難しく、特に御自身の研究内容についての話に至っては何一つ理解できない方もいた。それでも、いろいろな話を聞いて楽しかったし、自身の経験をもとに、受験や勉強のアドバイスも頂くことができた。偏差値や知名度に惑わされず、自分のやりたいことに合った大学に入るのが重要で、そういった意味では東大に入ることが必ずしもベストではないとも言われた。一人一人が全く違う別の経験をしていて、たくさんのことを学ぶことができた。東京大学もまた、オープンスクールでもなければ入れないような場所なので、私にとってとても貴重な経験となった。

ディレクトフォース、企業研修、東京大学見学など、今回の研修は貴重な体験が目白押しであった。その中で私は沢山のことを教えて頂き、また、様々なことを経験させて頂いた。どれも非常に興味深く、とても面白かった。ここで学んだこと、知ったことを無駄にすることなく、自分のこれからの進路を考える上で大きな参考にしていきたい。最後に、この研修を企画してくださった先生方、行動を共にして支えてくれた班のみんな、本当にありがとうございました。